

奈良学園中学校・高等学校 令和5年度 学校評価総括表

I 教育活動に関するもの

項目ごとの評価(4段階評価				A:極めて達成度が高い		B:概ね達成できている		C:課題を残している		D:課題が多く速やかな改善が必要)	
大項目	中項目	小項目	具体的方策(評価指標・観点)	評価		成果と課題		改善方策		学校評価委員からの意見	
I 教育活動に関するもの	(1) 教育目標・教育計画	① 教育目標について	・「至誠力行」の校訓の下、次の社会を担い、世界に雄飛する人材を育成する。 ・自己実現に向けて、基本的生活習慣・基礎学力の定着を図り、自学自習できる姿勢を育む。	A	A	・学校経営方針に基づいた各分掌の計画を作成し、教員間で共通理解・共通認識を持ち、教育活動に取り組んだ。		・自学自習ができる生徒に育てるための各学年での取組を体系化する。		学校教育目標の教職員間での共通理解が十分に図られている。	
		② 教育計画について	・SSH I・Ⅱ期の取組をベースに、課題研究における組織的・体系的な指導体制を確立し、一段高い研究開発を行い、生徒の学習意欲を高め、学力アップにつなぐ。 ・ICTの効果的な活用を図るとともに、生徒が主体的・能動的に取り組み考える探究型授業を展開する。	A		・SS発展チームからSS発展グループに改組。 ・現高校1年生のSS発展グループ希望者32名。 ・スムーズな授業展開に向けたICT環境強化のため改修を行う。		・探究活動を充実させるため、全教員の対象の研修会を行う。 ・探究活動の6カ年を見通してプログラムを構築する。 ・導入した炭化装置をもとに里山の持続可能な活用法を模索する。		探究活動はこれからの社会では絶対に必要なものである のでプログラムの構築は必要である。 地域との連携による探究活動も検討する必要がある。	
		③ スクールポリシーについて	・学校ビジョン委員会を開催し、スクールポリシー等の策定する。	B		・学校ビジョン委員会を開催し、スクールミッション、スクールポリシーの策定に向けて協議を継続している。		スクールミッションやスクールポリシーを策定し、それに基づき日々の教育活動を教職員全員が実践するよう徹底する。		概ね良好 である。	
	(2) 教科指導	① 学習指導計画の立案について	・カリキュラム構想委員会を設置し、課題を共有し、その改善に向けて協議する。 ・各教科における教科指導の課題を明確にし、6カ年を見通しての学習指導計画を策定し実施する。 ・大学受験を見すえた観点別評価の研究を進める。	B	B A	・「学習進度表」による6年間の指導計画の明確化を進めた。 ・大学入試の動向を確認しながら観点別評価の研究を続ける。		・各教科で指導改善に努める。 ・新課程教科書の研究をさらに進める。		概ね良好 である。	
		② 指導方法の工夫	・生徒の深い学びや学習内容の定着に向け、授業改善に努める。 ・目標・指導・評価の一体化を意識した授業改善や観点別評価に取り組む。 ・ICTを活用して、学習内容を深く考えさせる授業方法を創意工夫し、教員間で共有していく。 (評価指標・観点) ①授業を通して学習内容を深く考えることができるかどうか。＜生徒アンケート結果より＞ ②授業は、新たな知識を得たり、疑問を解決したりするために役立っているかどうか。＜生徒アンケート結果より＞ ③学校のコンピュータや情報通信 (ICT)に関連する施設・設備が充実しているかどうか。＜生徒アンケート結果より＞			・年2回、教科ごとにICTを有効に活用した研究授業を実施し、教員のスキルアップを図った。 ・今年度は高3以外の全生徒が個人持ちのipadを活用している。 ＜アンケート結果＞ ①「(どちらかと言えば) そう思う」90.7%、(今年度第1回91.0%、昨年90.4%、一昨年90.0%)であるが、 「そう思う」だけでは44.0%、(今年度第1回37.5%、昨年42.3%、一昨年33.8%)。 ②「(どちらかと言えば) そう思う」94.4%、(今年度第1回95.9%、昨年93.9%、一昨年94.1%) ③「(どちらかと言えば) そう思う」84.5%、(今年度第1回86.7%、昨年83.7%、一昨年84.0%)		・学力向上推進委員会を開催し、中学校、高等学校それぞれの課題を共有し、改善の方向を継続的に協議する。 ・ICT教育推進委員会を中心とした、職員研修会を開催する。 ・すべての教員が、学習内容を深く考えさせる授業方法の創意工夫に努める。 ・すべての教員が、探究型授業の展開に向け研修を重ねていく。		授業研究や教員研修を定期的に取り組まれており、それらを踏まえて授業改善がなされている。	
	(3) 道徳(人権)教育	道徳(人権)教育について	・道徳(人権)教育年間計画に基づき、生徒の実態に合った道徳(人権)教育を工夫して行う。 ・人権に関する様々な課題について、当事者意識を持たせるなど、人権意識の向上を図る。 ・生徒一人一人の人権意識を高め、人権への理解を深めるため、生徒会及び専門委員会等による人権意識を持った取組を推進する。 (評価指標・観点) ①「道徳」の時間、ホームルーム活動の時間や人権講演会などを通して、適切な人権教育が行われているかどうか。＜保護者アンケート結果より＞ ②学級活動の時間やホームルーム活動の時間などで、自分の生き方、あり方について考える機会があるかどうか。＜生徒アンケート結果より＞		B	・人権教育部による「心のプリント」を毎月配布し、生徒の人権意識向上に努めた。 ・高校生には悠以(ゆい)さん(シンガーソングライター)によるLGBTトーク&コンサート「自分らしく生きる」を、中学生には伊藤 真波さん(日本初の義手看護師、東京パラリンピック水泳代表)による講演会「あきらめない心」～前向きに生きることで必ず道は開ける～を実施した。 ・文化祭実行委員会が文化祭でのバリアフリー化に取り組んだ。 ＜アンケート結果＞ ①「(どちらかと言えば) そう思う」93.9%、(今年度第1回93.5%、昨年94.1%、一昨年90.7%)であるが、 「そう思う」だけでは30.4%、(今年度第1回33%、昨年31.5%、一昨年32.7%) ②「(どちらかと言えば) そう思う」75.0%、(今年度第1回77.4%、昨年75.5%、一昨年68.9%)であるが、 「そう思う」だけでは34.1%、(今年度第1回31.7%、昨年29.1%、一昨年26.4%)		・ホームルームや学級活動の時間などにおいて、人権教育計画に基づき、生徒の実態に合った人権教育を各担任が工夫して行う必要がある。また、人権に関する様々な課題について、自分と他者の違いを認め合い、互いを尊重することについて考えさせるなど、当事者意識を持たせながら進める必要がある。 ・地道で継続的な取組により、人権意識の向上を図る。特に、生徒会及び専門委員会等による人権意識を持った取組をさらに自主的なものにする。 ・教職員が人権課題について深い知見を養うため、積極的に研修に参加し、教員人権研修等で共有していく。 ・人権教育部が発行する「こころのプリント」を効果的に活用するため、学年団との連携を図る。		人権意識の涵養に向けて、様々な取組が系統的になされている。	

項目ごとの評価(4段階評価　A:極めて達成度が高い　B:概ね達成できている　C:課題を残している　D:課題が多く速やかな改善が必要)								
大項目	中項目	小項目	具体的方策(評価指標・観点)	評価		成果と課題	改善方策	学校評価委員からの意見
Ⅰ 教育活動に関するもの	(4) 特別活動等	① 生徒会活動について	・コロナの感染状況を注視しながら、生徒の自主的・主体的な取組ができるよう指導・助言を行う。 ・ホームルーム活動や特に中学校での学級活動において、生徒の自発的、自治的な活動が展開できるよう、計画的な事前準備を行う。(評価指標・観点) ①生徒会(委員会)活動やホームルーム(学級)活動に積極的に取り組んでいるかどうか。＜生徒アンケート結果より＞	B		・生徒会役員・文化祭実行委員会が中心となり、保護者・卒業生・入学希望生徒にも参観していただけるよう、感染防止対策を踏まえた企画と運営を自主的かつ主体的に行った。 ＜アンケート結果＞ ①「(どちらかと言えば)そう思う」71.2%、(今年度第1回69.3%、昨年67.4%、一昨年63.5%)であるが、「そう思う」だけでは中学校では32.8%(今年度第1回28.1%、昨年24.5%、昨年22.0%)。	・感染状況を注視しながら、生徒の自主的かつ主体的な取組を見守る。 ・引き続き中学校での学級活動において、生徒の自発的かつ自治的な活動が助長されるよう、計画的な事前準備を実施する。	生徒会活動や生徒の自主的な活動で、生徒が取り組める範囲を明示する必要がある。
		② 部活動について	・部活動をととして、心身の健全な育成のみならず、挨拶等の礼儀や協調性を育む。 ・部活動と学習の高いレベルでの両立ができるよう、その取組方法や意識の持ち方などを生徒や卒業生が発表する場を設け、生徒全体の意識改革を行う。(評価指標・観点) ①部活動を通して、生徒の人間形成が育まれているかどうか。＜保護者アンケート結果より＞ ②部活動は充実していたかどうか。＜生徒アンケート結果より＞ ③勉強と部活動の両立ができたかどうか。＜生徒アンケート結果より＞	B	B	・概ね各部活動とも目標をもって活動し続けることが出来たが、学習と部活動の両立を達成できていない生徒が増えてきている。 ＜アンケート結果＞ ①「(どちらかと言えば)そう思う」90.8%、(今年度第1回90.2%、昨年88.8%、一昨年88.9%) ②「(どちらかと言えば)そう思う」90.7%、(今年度第1回91.8%、昨年90.0%、一昨年95.0%) ③「(どちらかと言えば)そう思う」71.3%、(今年度第1回73.5%、昨年76.4%、一昨年88.9%)であるが、「そう思う」だけで30.6%、(今年度第1回28.9%、昨年29.2%、一昨年32.4%)	・学習と部活動の両立に悩んでいる生徒が増えている傾向にあるので、学年団とクラブ顧問の間で連絡を密にし対応する。 ・学習と部活動をより高いレベルで両立できるよう、両立ができている生徒やできていた卒業生に、その取組方法や意識の持ち方などを発表する場を設け、生徒全体の意識改革を行う。	学習と部活動の両立に対する悩みは、時間的な問題だけでなく、生徒のやる気に起因しているのではないか。生徒のやる気を活性化するような取組が必要である。
	(5) 総合的な探究(学習)の時間の指導	特別講座、「卒業論文(課題研究)」について	・外部人材による講座等を企画するなど、広い視野を養い、興味・関心を高めことができるように工夫する。 ・「課題研究」が課題研究にスムーズに繋がるものとなるよう、内容、方法を体系化していく。(評価指標・観点) ①課題研究・課題研究を通して得るものがあったかどうか。＜生徒アンケート結果より＞		B	・中学3年生を対象に卒業生による特別講座を4回を実施した。 ・SSH事業の一環として、科学に対する興味・関心を高めるため、出前講義5回開催した。 ・中3生全員に取り組ませている「課題研究」において中間発表を取り入れた。 ・中学2年で「課題研究」に繋げるため「Locus探究学習プログラム」「Critical・Thinking」を導入した。 ＜アンケート結果＞ ①「(どちらかと言えば)そう思う」74.4%、(今年度第1回80.3%、昨年75.7%、一昨年79.2%)	・可能な限り、外部人材や卒業生による講座等を企画し、生徒の多様なニーズに対応していく。 ・「課題研究」が「課題研究」にスムーズに繋がるものとなるよう、内容、方法をさらに検討していく。 ・中1の宿泊オリエンテーションから始まる探究活動を体系化していく。	目標を持てる生徒が増えている。学校現場だからこそ結果を求めない課題を与えることも必要である。今年度実施した図書館講座のような人文系の講座も充実させると良い。
	(6) 進路指導	進路指導について	・生徒の進路実現に向け、学年に応じた学力養成のための指導を実施する。 ・各学年での進学セミナーを効果的に実施する。 ・総合型選抜、学校型選抜等の多様な入試に対応するため、学習や課外活動等の取組や成果のポートフォリオ化をより充実させていく。 ・中学校での進路指導、キャリア教育の充実を図る。(評価指標・観点) ①生徒の進路実現に向けた取組が行われているかどうか。＜保護者アンケート結果より＞ ②学校では、進路を考える指導が適切に行われているかどうか。＜生徒アンケート結果より＞ ③学校では、進路選択についての情報が十分に提供されているかどうか。＜生徒アンケート結果より＞		B	・各学年において外部模試等を実施するとともに、補習を実施した。高校3年においては志望校別に、大学の名を冠した講座を中心に22講座開講した。中学1年～高校2年においては、検査や模試の成績をもとに、上位層を伸ばす講座および下位層をフォローする講座を開講した。また中学1、2年には定期考査前に自習教室を開講している。 ・中3・高1を対象とした京大研修会(12月13日)を京都大学で実施し、105名が参加した。 ・中3・高1を対象とした東大研修会(8月17日～18日)を参加希望者28名で予定していたが台風のため延期、結局先方の都合のため中止となった。 ・高2生を対象とした夏期セミナー72名、冬季セミナー38名が参加し、ともに信貴山観光ホテルにて1泊2日で実施した。 ＜アンケート結果＞ ①「(どちらかと言えば)そう思う」82.1%、(今年度第1回87.2%、昨年82.5%、一昨年76.8%)であるが、「そう思う」だけでは中学校で21.8%、(今年度第1回28.7%、昨年24.6%、一昨年23.8%) ②「(どちらかと言えば)そう思う」83.9%、(今年度第1回83.2%、昨年82.2%、一昨年77.4%) ③「(どちらかと言えば)そう思う」82.0%、(今年度第1回82.6%、昨年80.0%、一昨年73.1%)	・各学年に応じた進学セミナーを効果的に運用するため進路指導部と学年で協議し、進路部主導で行う。 ・調査書や推薦書の作成をより充実させるため学習や課外活動等の取組や成果のポートフォリオ化をさらに進め、高3担任が使いやすい仕組みを作る。 ・主に学年により企画運営される中学校での進路指導ホームルームやキャリア教育の充実を図るための講演会等を進路指導部主導で行い体系化していく。	幅広い職業について、キャリア教育の充実を図る必要がある。

項目ごとの評価(4段階評価　A:極めて達成度が高い　B:概ね達成できている　C:課題を残している　D:課題が多く速やかな改善が必要)								
大項目	中項目	小項目	具体的方策(評価指標・観点)	評価		成果と課題	改善方策	学校評価委員からの意見
I 教育活動に関するもの	(7) 生徒指導	① 生徒指導について	・集団生活のマナーやルールを理解させるとともに基本的な生活習慣を確実に確立させるよう指導する。 ・生徒指導部と各学年が連携し、日々の面談や「ころといじめのアンケート」等により、いじめに繋がる可能性を早期に発見し、早期に対応する。 ・中学校における基本的な生活習慣の向上を図り、集団における自分を自覚させる取組を行う。 ・教職員が粘り強く生徒理解に努め、生徒の変化に気づき、保護者と連携を図りながら適切な指導を行う。 ・日常の清掃を通して、日頃から校舎を綺麗に使うこと、公共の場で他者に迷惑をかけないこと、設備を大切に使うマナーを身に付けさせる。(評価指標・観点) ①いじめを許さない取組が適切に行われているかどうか。＜保護者アンケート結果より＞ ②規範意識や基本的な生活習慣が身につくように指導が行われているかどうか。＜保護者アンケート結果より＞ ③学校では、生活面の指導が適切に行われているかどうか。＜生徒アンケート結果より＞ ④校内清掃や美化にしっかり取り組んでいるかどうか。＜生徒アンケート結果より＞	B		・学級活動やホームルーム活動等をととして、集団生活のマナーやルールを理解させることに努めた。 ・「ころといじめのアンケート」を年間3回実施した。その結果をもとにいじめ問題対策委員会を開催し、早期解決に向けて生徒指導を行った。 ・生徒指導委員会を14回(2月21日まで)開催し、教員間で情報を共有しながら適切な生徒指導を行った。 ・保護者向け講演会「親子で取り組むいじめ予防」(中1)「思春期の子育てについて」(中2、3)を実施。 ＜アンケート結果＞ ①「(どちらかと言えば)そう思う」83.0%、(今年度第1回84.4%、昨年84.0%、一昨年78.9%)であるが、 「そう思う」だけでは17.8%、(今年度第1回19.4%、昨年20.6%、一昨年18.0%) ②「(どちらかと言えば)そう思う」85.1%、(今年度第1回88.1%、昨年88.7%、一昨年84.5%) ③「(どちらかと言えば)そう思う」87.1%、(今年度第1回89.43%、昨年86.3%、一昨年83.8%) ④「(どちらかと言えば)そう思う」86.9%、(今年度第1回87.9%、昨年88.4%、一昨年86.1%)	・今年度実施した保護者向けの講演会を来年度も実施し、保護者と協力して中学生の指導にあたる。 ・生徒指導部と学年団が連携し、年間3回の「ころといじめのアンケート」により、いじめに繋がる可能性を早期に発見し、早期に対応する。 ・規範意識や基本的な生活習慣を生徒に身につけさせるために、すべての教職員が繰り返し粘り強く生徒と向き合う必要がある。	通学時のバスや自転車の乗車マナーについては今後も指導が必要である。
		② 教育相談等について	・教育相談体制を生徒・保護者に周知することで、そのより有効的な活用を図る。 ・生徒指導情報共有システム(気付き通信)を活用し、思春期特有の多様な悩みを持った生徒の支援を図る。(評価指標・観点) ①生徒の悩みを把握して迅速な対応が行われているかどうか。＜保護者アンケート結果より＞ ②スクールカウンセリングの体制が整い、必要なときに活用できるかどうか。＜保護者アンケート結果より＞ ③先生は、生徒の悩みや困り事を把握して迅速に対応しているかどうか。＜生徒アンケート結果より＞ ④必要なときに保健室やカウンセリング室で悩みの相談ができるかどうか。＜生徒アンケート結果より＞	B		・日常の教職員による相談活動の他に、スクールカウンセラーとの面談を設定することで、相談を必要とする生徒・保護者への対応に努めている。 ・生徒指導情報共有システム(気付き通信)を一部改修し、各生徒の課題等を必要に応じて教員間で共有した。 ・スクールカウンセラー活用状況(2月21日まで) - 中学35件のべ173回 (昨年23件のべ155回、一昨年23件のべ73回) - 高校17件のべ88回 (昨年22件のべ102回、一昨年35件のべ102回) ＜アンケート結果＞ ①「(どちらかと言えば)そう思う」78.7%、(今年度第1回79.5%、昨年79.0%、一昨年72.9%) ②「(どちらかと言えば)そう思う」85.4%、(今年度第1回87.2%、昨年83.0%、一昨年78.0%) ③「(どちらかと言えば)そう思う」80.3%、(今年度第1回83.1%、昨年79.4%、一昨年75.0%) ④「(どちらかと言えば)そう思う」73.9%、(今年度第1回75.5%、昨年70.4%、一昨年65.4%)	・今後もスクールカウンセラーを週2日配置し、教育相談体制について生徒・保護者へさらに周知する。 ・生徒指導情報共有システム(気付き通信)の有効活用のためシステムのさらに改修を行う。	カウンセラーの認知は高まっているが、まだまだハードルが高いと感じている生徒もいる。さらに利用しやすいはたらきかけが必要である。

II 学校経営に関するもの

項目ごとの評価(4段階評価 A:極めて達成度が高い B:概ね達成できている C:課題を残している D:課題が多く速やかな改善が必要)

大項目	中項目	小項目	具体的方策(評価指標・観点)	評価		成果と課題	改善方策	第三者委員からの意見
II 学校経営に関するもの	(1) 組織運営	校内会議の運営と位置づけ	・学年主任会議、校務分掌の長による校務運営会議、職員会議を定期的に開催し、全教職員が課題意識を共有できるように努める。 ・各校務分掌会議や各委員会を定期的に開催し、学校運営のさらなる活性化を図る。		A	・左記の会議を開催し、報告・相談・連絡により、情報や課題意識について教職員間で概ね共有することができた。	・校務運営委員会及び各委員会をより機能を生かしながら、学校運営のさらなる活性化を図る。 ・分掌が主導し、学年団と連携して各行事等を実施する。	教員が余裕を持つことで学校の活力となるので、教員の負担を改善する取組も必要である。
	(2) 研究・研修	① 校内研修	・教職員の資質及びスキルを高めるため、教育の今日的課題についての校内研修を実施しつつ、探究型授業を推進する。		B	・教務部の主導による各教科のICTを活用した研究授業を実施した。 ・「子どものSOSを聴くために」～実践編～を職員研修として受講した。 ・人権職員研修を年5回おこなった。 ・教育相談事例研究会を兼ねた「教育相談 職員研修会」を1学期、2学期にそれぞれ1回実施した。 ・「チームビルディング研修」 職員体験会を実施した。	・来年度は全生徒が個人用iPadを持つため、AL型授業やICTを活用した授業研究をより一層推進する。	ICTの教育活動全般での活用等についても実践の中で研究が続けられることを期待する。
		② 校外の研修への参加	・教職員の資質及びスキルを高めるため、校外での研修にも積極的に参加し、研修の成果を各教科等で一層共有していく。	B		・予備校主催の学習指導スキル向上等の研修会は、コロナ禍以降多くがリモートによる実施となったが、のべ7名の教員が参加した。 ・県立教育研究所主催の研修会に4講座5名の教員が参加した。	・教科指導に関する研修の成果を各教科等で一層共有していく。 ・県立教育研究所主催の研修会は、多様な生徒に対しての適切な指導に不可欠な内容であり、全職員へ共有していく。	概ね良好 である。
	(3) 安全管理	危機管理体制について	・教員の安全管理の意識を高め、生徒が安全で安心して過ごせる環境作りに努める。 ・防災避難訓練、救急法等講習会、自転車安全運転のための指導を、引き続き実施していく。特に自転車マナーについての指導を徹底して行う。 ・県のガイドラインに基づき、新型コロナウイルス感染症の感染対策を実施していく。 (評価指標・観点) ①登校時の安全指導が適切に行われているかどうか。＜保護者アンケート結果より＞ ②新型コロナウイルス感染症の感染対策が適切に行われているかどうか。＜保護者アンケート結果より＞ ③学校では、防災訓練を通して、災害時や非常時の避難経路の確認が行われているかどうか。＜生徒アンケート結果より＞ ④学校では、登校時の安全指導が適切に行われているかどうか。＜生徒アンケート結果より＞ ⑤学校では、新型コロナウイルス感染症の感染対策が適切に行われているかどうか。＜生徒アンケート結果より＞		A	・防災避難訓練を実施し、避難経路等の確認を行った。 ・「救急法等講習会」、「サイバー犯罪防止教室」「薬物乱用防止教室」「自転車安全運転講習会」を各対象生徒に実施した。 ・自転車安全運転のための指導を継続実施した。 ・自転車通学時の事故件数(2月21日まで) 警察・救急車を要請した事故 5件 (昨年3件) 転倒等で軽傷であった事故 2件 (昨年14件) ＜アンケート結果＞ ①「(どちらかと言えば)そう思う」88.6%、(今年度第1回89.0%、昨年89.9%、一昨年85.8%) ②「(どちらかと言えば)そう思う」86.1%、(今年度第1回91.0%、昨年93.4%、一昨年86.8%) ③「(どちらかと言えば)そう思う」76.9%、(今年度第1回82.7%、昨年78.4%、一昨年75.5%) ④「(どちらかと言えば)そう思う」85.6%、(今年度第1回86.5%、昨年88.6%、一昨年82.2%) ⑤「(どちらかと言えば)そう思う」81.1%、(今年度第1回81.6%、昨年85.2%、一昨年82.4%)	・クラス毎に実施する避難経路確認と全校生徒一斉の防災避難訓練を実施し、生徒全員が災害時に適切な行動をとれるよう指導する。 ・諸活動での熱中症対策を徹底するとともに、救急法等講習会において緊急時における行動についての知識を深め、適切な行動をれるように指導する。 ・自転車通学時の安全運転とマナーについての指導を徹底して行い、事故件数を減らす。 ・新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染対策を可能な限り実施していく。	大麻やオーバードーズの危険性やネット社会の闇について学べる具体的な取組を増やす必要がある。

項目ごとの評価(4段階評価　A:極めて達成度が高い　B:概ね達成できている　C:課題を残している　D:課題が多く速やかな改善が必要)								
大項目	中項目	小項目	具体的方策(評価指標・観点)	評価		成果と課題	改善方策	第三者委員からの意見
Ⅱ 学校経営に関するもの	(4) 保健管理	保健指導・教育相談について	・生徒の健全な心身の発達を促すとともに、必要な情報の収集及び啓発に努める。 ・教職員はスクールカウンセラーとの情報交換を定期的の実施し、専門的な意見を仰ぎ、生徒対応に活かしていく。 ・スクールカウンセラーを含む教育相談体制を生徒・保護者に周知する。 (評価指標・観点) ①スクールカウンセリングの体制が整い、必要なときに活用できるかどうか。＜保護者アンケート結果より＞ ②必要なときに保健室やカウンセリング室で悩みの相談ができるかどうか。＜生徒アンケート結果より＞	B	B	・教育相談事例研究会を兼ねた「教育相談　職員研修会」を1学期、2学期にそれぞれ1回実施した。 ・「相談室だより」を年間5回発行した。 ・健康診断を通じた保健指導等をおこなった。また、食物アレルギー事故防止に努めた。 ＜アンケート結果＞ ①「(どちらかと言えば)そう思う」85.4%、(今年度第1回87.2%、昨年83.0%、一昨年78.0%) ②「(どちらかと言えば)そう思う」73.9%、(今年度第1回75.5%、昨年70.4%、一昨年65.4%)	・スクールカウンセラーと教職員との情報交換を定期的の実施する。 ・教員はスクールカウンセラーの専門的な意見を仰ぎ、生徒対応に活かしていくために、研修会を開催する。 ・教育相談体制について生徒・保護者へのさらなる周知が必要である。	教育相談体制の周知だけにとどまらず、カウンセリングを受けること自体への抵抗感を払拭していくことがさらに必要である。
	(5) 家庭・地域との連携	① 地域との連携について	・地元自治会や近隣の福祉施設と連携しながら、地域とのつながりを深める活動を行う。 ・近隣住民の学校に対する信頼を深めるために、通学マナーなど、日常の生徒の行動に対する指導を徹底する。また、保護者の送迎時のルールについても徹底する。 ・各行事をより充実させ、本校教育活動を理解いただくように努める			・矢田南小学校の学童児童を対象にした実験教室を開催した。 ・地域の小学生を招いて「奈良学塾」を2回開催した。 ・「近畿SSH環境活動フォーラム」を本校主催で実施し、里山の再生整備について学術交流ができた。	・近隣住民の学校に対する信頼を深めるために、通学マナーなど、日常の生徒の行動に対する指導を徹底する。 ・各行事をより充実させ、本校教育活動を理解いただくように努める。 ・奈良学園の周辺を掃除する生徒たちのボランティアを再開する。	地域の方々と生徒会が地域の問題を話し合う機会を作ると良い。
		② 保護者・育友会との連携について	・育友会本部役員との定期的な懇談や保護者との懇談等とおして、本校の教育について共通理解を図る。 ・学校評価委員会を組織し、育友会から参加していただき意見を仰ぐ。 (評価指標・観点) ①保護者会や三者懇談、学年だよりを通して、学校の様子をうかがい知ることができるかどうか。＜保護者アンケート＞	B	B	・1学期に1回、2学期に1回、学年ごとに保護者会をもち、学校と保護者の相互理解を図った。 ・育友育友会の役員の方と学校管理職との懇談の会は開催できなかった。 ＜アンケート結果＞ ①「(どちらかと言えば)そう思う」90.1%、(今年度第1回91.8%、昨年91.2%、一昨年87.2%)	・今年度は本部役員との懇談ができなかったので、来年度は定期的な懇談を計画し、保護者の意見を教育活動に活かしていく。	アンケート結果も昨年にも増して良好であるが、さらに学校と保護者との間で適切にコミュニケーションがとられ必要がある。
	(6) 施設・設備	教育環境の整備について	・全教職員が連携して学習環境を整備する。 ・学校施設の長寿命化を図るために計画的な整備計画を検討する。	A	A	・校内ネットワークの高速化を行った。 ・必要に応じて、既存設備の改善・補修に努めた。	・学校施設の長寿命化を図るために計画的な整備計画に基づき進める。	適切に実施されている。
	(7) 情報管理・提供	① 個人情報の管理・保護について(未)	・常に教職員に生徒個人情報の管理を厳重に行うよう指示し、継続して注意喚起を行う。			・個人情報管理については、全職員に注意徹底を図るよう促し、適切に対応できた。	・常に教職員に生徒個人情報の管理を厳重に行うよう指示し、継続して注意喚起を行う。	適切に実施されている。引き続き教職員の意識の相互啓発を行われることを期待する。
		情報の提供について	・HPを刷新し、外部の方にもわかりやすい情報や資料の公開・提供に努める。 (評価指標・観点) ①学校のホームページから最新の情報や必要な情報を得ることができるかどうか。＜保護者アンケート結果より＞	B	B	・外部の方へは、HP上で育友会の協力を得ながら学校行事等の様子を「育友会だより」等で伝え、情報提供に努めた。 ＜アンケート結果＞ ①「(どちらかと言えば)そう思う」74.1%、(今年度第1回76.4%、昨年76.6%、一昨年75.3%)	・来年度にHPをリニューアルして、アクセスしやすい構造にする。 ・HPの更新を頻繁にして、外部の方にもわかりやすい情報発信に努める。	HPのリニューアルし外部の方にもわかりやすい情報発信が必要である。
	(8) 入試及び広報活動	① 広報活動について	・本校の特徴や教育内容をより理解していただくよう、学校見学会・説明会、塾等でのプレゼンテーションの方法等について工夫・改善を継続して行い、志望者の増加を目指す。	B	B	・1回あたり50組限定の学校見学会を計8回実施した。今年度も中学入試説明会、高校入試説明会において卒業生に学校生活について話ししてもらい好評を得た。 ・世間に知られていない本校のあらゆる教育活動を改めて周知し理解してもらえるよう広報活動に工夫を加えた。	・本校の特徴やよさをより理解していただくよう、学校見学会・説明会、塾等での説明会におけるプレゼンテーションの方法等について工夫・改善を継続して行い、志望者の増加を目指す。 ・多くの地域から受験者が増えるよう広報活動の範囲を広げる。 ・受験希望の児童・生徒・保護者にわかりやすいHPの改良に努める。	理数コースを志望する女子を増やす工夫が必要である。
		② 入試事務について	・守秘義務を徹底し、入試問題作成、事務作業、採点・発表作業など厳正な入試を滞りなく行っていく。 ・中学・高校入試実績の分析を適切に行い、入試のあり方の検討に役立てる。	A		・守秘義務を徹底したうえで、厳正な入試を行った。 ・Web出願・デジタル採点等の習熟により、入試事務をより円滑・正確に進めることができた。	・今後も、守秘義務を徹底したうえで、厳正な入試を行っていく。 ・中・高の入試実績の分析を適切に行い、入試のあり方の検討に役立てる。	適切に実施されている。引き続き厳正に実施されることを期待する。